

# 横尾忠則 寒山百得展

Tadanori Yokoo : 100 Takes on Hanshan and Shide

会期

2024年5月25日(土)―8月25日(日)

開館時間

10:00―18:00

※入場は17:30まで

休館日

月曜日

※ただし7月15日(月・祝)、8月12日(月・振休)は開館、7月16日(火)、

8月13日(火)休館

会場

横尾忠則現代美術館



ポスター (デザイン: 横尾忠則)

## 展覧会について

中国は唐の時代に生きたとされる寒山と拾得。世俗から離れ、詩作に耽る一方でぼろを身につけ奇行をはたらく。しかし実のところ彼らの正体は、文殊菩薩と普賢菩薩であるという――まるでおとぎ話のようなキャラクターに、これまで多くの芸術家たちが魅せられ、筆を走らせてきました。横尾忠則も彼らの在り方に芸術家としての理想像があるとして、およそ1年の間に102点もの絵を描いたのです。

本展は、2022年に当館で開催した「Forward to the Past 横尾忠則 寒山拾得への道」展に続くものです。曾我蕭白作品の新たな解釈から始まった横尾の探求は、やがて自由奔放に展開し、時には浮世絵の美人画や白ロシアの浮遊する恋人たち、はたまた一塊になって走るマラソンランナーとさまざまなイメージに寒山拾得の姿を投影していきます。

すべて新作、当館では初公開です。画業40年を超えてなおパワーアップする横尾のいまをご覧ください。

## 横尾忠則 寒山百得 展

2019年、横尾は展覧会への参加を機に兼ねてより魅了されていた江戸画壇の奇才、曾我蕭白（1730-1781）と対峙します。蕭白作品から寒山拾得図を選んで翻案し、現代版の新たなイメージを生み出しました。寒山は巻物を、拾得は箒を持った姿で描かれるのが通例ですが、横尾の手にかかると巻物はトイレットペーパーに、箒は掃除機へと現代風に様変わり。

その後繰り返し描かれた寒山拾得図はいまや130点以上を数えます。今回はその中でも2021年の9月から2023年の6月の間に制作された最新作をご紹介します。当初は伝統的な図像に倣っていた横尾の寒山拾得は、あっという間に枠組みを飛び越え様々なシーンに出没していきます。結婚式の一団、ゴンドラに乗るカップル、ゴールインするマラソンランナーたち。草上で昼食を囲むこともあれば藤棚の下で夕涼みを楽しむ。魔法の絨毯や箒で空を飛び、ついには幾何学的な形の世界へ。制作期間中に横尾が触れた、あるいは降って沸いてきたあらゆるイメージが画面に映し出されています。同じ時代に生きる私たちの既視感をくすぐるものも多く、そのソースに思い至った時などは作品にぐっと親しみもわくでしょう。

本展では制作順に作品を展示していますので、横尾の中の寒山拾得像がおおよそ1年の間にいかに変遷していったかにもぜひご注目ください。



《2023-01-14》  
2023年  
162.1 × 130.3 cm、アクリル・布  
作家蔵

### 寒山拾得とは？

舞台は中国浙江省天台山の国清寺。唐の時代、豊干（ぶかん）禅師はある日拾得（じっとく）を連れて帰ってきます。拾得の仕事は寺の厨の掃除であり、そこに残飯をわけてもらいに通ったのが近くの寒山という地に隠遁していた寒山（かんざん）でした。彼らの詩を収めた『寒山詩集』が今日に伝えられています。蓬頭（ぼうちう）に襤褸（れんじょ）という出立ちで、突如走り出したりケタケタ笑ったりとおかしな振る舞いをしていったという風狂の詩僧たちは、いつしか文殊菩薩と普賢菩薩の化身であると囁かれるようになり、神聖視されていきました。寒山拾得図は水墨画とともに日本に伝わり、俵屋宗達（16-17世紀）や与謝蕪村（1716-1784）、長沢芦雪（1754-1799）、伊藤若冲（1716-1800）らの手による作品が残されています。「本格派の面倒臭い画家になるには寒山拾得みたいにならんとあかんです。」\*と述べるなど、横尾はかねてより寒山拾得に芸術家としての理想の姿を見出していました。

\*2019年4月23日の横尾忠則X(旧Twitter)より



《2023-06-27》  
2023年  
181.8 × 227.3 cm、アクリル・布  
作家蔵

## 「寒山百得」展の 名前の由来

本展の展覧会名である寒山百得は、はじめに横尾が寒山拾得図を100点描くという目標を立てたことに由来しており、「拾得」の名前に含まれ漢数字としては10を表す「拾」を「百」に増やしたものです。しかしアスリートの心持ちで挑んだ横尾の制作スピードは速く、最終的には102点の作品ができあがりしました。80代後半の横尾がこれだけの量の絵、しかもキャンバスの大きさは100号、150号ばかりですから、それらを短期間に仕上げたことには驚きです。なお、横尾の誕生日に描かれた最後の作品は、曾我蕭白作品をもとに横尾が初めて描いた寒山拾得図に立ち戻っています。

## 作品タイトルを手引きに

文章のように長かったり、駄洒落になっていたり何かしらを引用したものだったり、魅力的なタイトルも横尾作品の特徴のひとつですが、本展では珍しくタイトルが全てその作品の制作日になっています。そして、作風の変遷を見せたいという横尾の希望に沿って、原則として制作順に展示しています。タイトルに示された日付は鑑賞者である私たちが生きてきた時間とも重なっており、例えば《2022-12-12》が描かれた時期にちょうど開催されていた2022FIFAワールドカップなどは記憶にも新しいでしょう。画面をよく見ると、トランプの絵札よろしく上下反転するみたいに描かれた2人の人物は各々サッカーボールを蹴っているようですし、芯の部分が赤く塗られたトイレットペーパーは日本の国旗にも見えてきます。横尾も4年に1度の世界的なイベントに熱狂したのでしょうか。その作品が描かれた時に世の中では何が起きていたか、自分は何をしていたか考えていたか。そんな自分自身の記憶と照らし合わせて鑑賞するのも楽しいかもしれません。

《2022-12-12》  
2022年  
162.1 × 130.3 cm、アクリル・布  
作家蔵



### 変幻自在なキャラクター

とにかく多彩な横尾の寒山拾得。世界各地を旅する横尾夫妻、絵本の挿絵に描かれた武蔵と小次郎、モネが写した踊る男女にマネの代表作《草上の昼食》、シャガールが得意とした幸せな恋人たち、そして涅槃に入のお釈迦様。人数ももはや2人とは限りません。アトリビュートのはずのトイレットペーパーと掃除機さえ消えてしまいます。それでもそこに寒山と拾得の存在を嗅ぎとってしまう私たちは、もうヨコオ・ワールドの虜なのかもしれません。



一塊になってゴールになだれこむマラソンランナーの集団。カラフルなウェアやシューズ、たすきの色が背景の黄色とあいまって明るいお祭りムードをつくっています。一見すると寒山拾得とは無関係な光景のようですが、赤い髪の人物の首には便座がぶらさがり、ゴールテープもトイレットペーパーになっています。そうすると彼らのボサボサ頭も風に煽られてなのか、それとも彼らが寒山拾得だからなのか分かりません。この作品が描かれた日本の1月と言えばマラソンのベストシーズンにあたるので、横尾も試合の様子などを見て作品に取り入れたのでしょう。

《2022-01-26》  
2022年  
181.8 × 227.3 cm、油彩・布  
作家蔵

《2022-04-21》からは突然郷土ドン・キホーテと従者サンチョ・パンサのシリーズが始まります。寒山はともかく拾得は、実は寒山に付き従う陰のようなもので、その存在はさらに曖昧であるという説もあるそうです。そうだとすれば、この2組の関係性を重ねて見ることもできるでしょう。それまで敷物として画面における印象的な要素だった赤い布は、ここからはマントへ様変わりしています。《2022-04-23》は、マドリードのスペイン広場に立つドン・キホーテとサンチョ・パンサの像をモデルにしています。「Clear Light」シリーズ(1974)や《ネモ船長ピカソに遭遇》(2007)など横尾が何度もその作品を参照してきたギュスターヴ・ドレ(1832-1883)がドン・キホーテの物語の挿絵も手掛けていることから、寒山百得シリーズにおいて急に現れたように見えるこの2人のモチーフにも実は理由があるのかもしれません。



《2022-04-23》  
2022年  
162.1 × 130.3 cm、アクリル・布  
作家蔵

## 横尾忠則 寒山百得 展



《2022-05-01》  
2022年  
162.1 × 130.3 cm、アクリル・布  
作家蔵



《2022-05-03》  
2022年  
162.1 × 130.3 cm、アクリル・布  
作家蔵

《2022-05-01》は久隅守景(生没年不詳)筆《納涼図屏風》(17世紀、東京国立博物館蔵)の一部から構図がとられています。男性は着物ではなく現代風の洋服らしきものを身につけており、女性はエドゥアール・マネ(1832-1883)の《草上の昼食》(1862-63年、オルセー美術館蔵)に由来して、何も身につけず脚を前方に投げ出しています。寒山と拾得の要素はほぼ失われているものの、親子が座る赤い敷物はこの時期の寒山百得シリーズに共通しているモチーフであり、比較すると明らかな連続性があります。2日後に描かれた《2022-05-03》もまた同様の構図を用いているものの、登場人物が増え、個性も強調されていることから、まったく異なる集いになっています。



次の展開は、箒にまたがって飛び交う人々です。顔や衣服の様子は違えど、魔法使いの学校を舞台にしたイギリス発祥の大人気小説をついつい思い浮かべてしまいますが、寒山拾得と共通しているのは箒です。厨の隅で掃除をしていた拾得が手にした箒にまたがり、スイスイと空を飛び始めたのかと想像すると面白くありませんか。横尾の想像源に限りはなく、自分自身の思い出の写真や過去の作品、東西の名画から同時代のポップカルチャーまで実に幅広いのです。そしてそれは、あらゆるところに寒山拾得を見出す作家としての目線の在り方も示しています。

《2022-05-28》  
2022年  
162.1 × 130.3 cm、アクリル・布  
作家蔵

ジョン・ランボー\*、アルチュール・ランボー(1854-1891)、エドガー・アラン・ポー(1809-1849)、江戸川乱歩(1894-1965)に「乱暴者」\*\*。《2023-02-13》では語感の似通った人物を集めた言葉遊びが展開されています。それぞれ神妙な面持ちでこちらを見つめています。各人物に添えられた赤い英単語をつなぐと「We are Hanshan and Shide(われわれは寒山拾得である)」になることから、彼らもまた横尾によって風狂の詩人という新たなキャラクターが付け加えられたことが分かります。よく見るとジョン・ランボーは掃除機を、江戸川乱歩はトイレトペーパーを手にしています。

\*ハリウッド映画「ランボー」シリーズの主人公の名前

\*\*1953年に公開された映画『乱暴者(The Wild One)』のこと。映画のタイトルとしては「あばれもの」と読む



《2023-02-13》  
2023年  
162.1 × 162.1 cm、油彩・布  
作家蔵

## 関連イベント

---

### 講演会「横尾忠則の寒山百得について」

講師：建畠 哲（埼玉県立近代美術館館長）  
日時：6月15日（土）14:00－15:30  
会場：当館オープンスタジオ  
定員：60名（当日先着順）、参加無料

### キュレーターズ・トーク

講師：当館スタッフ  
日時：6月29日（土）、7月15日（月・祝）、8月10日（土）いずれも14:00－14:45  
会場：当館オープンスタジオ、参加無料  
■担当学芸員が本展の見どころを分かりやすく解説します

※イベントの詳細や、その他のイベント情報については当館ウェブサイトをご覧ください

## 同時開催

---

### YOKOO TADANORI COLLECTION GALLERY 2024 Part1

5月25日（土）－8月25日（日）  
同時開催の「横尾忠則 寒山百得」展に関連づけた展示を行います。横尾の寒山拾得シリーズのはしりである《寒山拾得 2020》（2019）の他、東京国立博物館所蔵の寒山拾得関連作品をパネルでご紹介。

※入場には「横尾忠則 寒山百得」展のチケットが必要です。

## 相互割引

---

■兵庫県立美術館（特別展またはコレクション展）のチケット半券→当館企画展が団体割引料金に  
■当館企画展のチケット半券→兵庫県立美術館（特別展またはコレクション展）が団体割引料金に  
※会期中のチケット半券に限り有効

## 基本情報

---

# 横尾忠則 寒山百得 展

Tadanori Yokoo: 100 Takes on Hanshan and Shide

2024年5月25日(土)―8月25日(日)

開館時間 10:00―18:00 ※入場は17:30まで

休館日 月曜日 ※ただし7月15日(月・祝)、8月12日(月・振休)は開館、7月16日(火)、8月13日(火)休館

主催 横尾忠則現代美術館([公財]兵庫県芸術文化協会)、読売新聞社

協力 **ホテルオークラ 神戸**

観覧料 一般700(550)円、大学生550(400)円、70歳以上350(250)円、高校生以下無料

※( )内は20名以上の団体割引料金

※ 障害者手帳等をお持ちの方は各観覧料金(ただし70歳以上は一般料金)の75%割引

※ 障害者手帳等をお持ちの方1名につき、介助者1名無料

※ 割引を受けられる方は、証明できるものをご持参のうえ、会期中美術館窓口で入場券をお買い求めください

出品点数 絵画 102点

※ 状況に応じて予定が変更になる場合があります。最新情報は当館ウェブサイトをご覧ください

※ 本展は予約制ではありません

※ 本展は2023年9月12日(火)～12月3日(日)の期間に東京国立博物館・表慶館で開催された「横尾忠則 寒山百得」展を巡回するものです



## お問合せ

---

### 横尾忠則現代美術館

〒657-0837 兵庫県神戸市灘区原田通3-8-30

tel. 078-855-5607(総合案内) fax. 078-806-3888

学芸担当:小野 尚子<ono\_naoko@ytmoca.jp>

広報担当:早水 千尋<hayamizu\_chihiro@ytmoca.jp>

画像データは当館ホームページ(<https://ytmoca.jp>)のプレス専用ページからお申込みいただけます  
ホームページに掲載されていない画像は、上記連絡先までご請求ください